

提携米通信

2021年11月号・黒瀬農舎

今年の稲刈りは長期戦になりました。



JAS有機あきたこまちの雄姿！ 2021.10.12撮影

無農薬栽培のあきたこまち。素晴らしい出来栄です。

この10日余り前までは、雑草のヒエが一杯で見苦しいでした。ヒエ取に精を出したこと、取り残したヒエは、一足早く熟れて実を落とし目立たなくなったのです。

我が家の稲刈りはスタートは早かったものの、途中から雨が多くなり、終わりは例年よりやや遅れました。

我が家が終えたころ「もう2、3日ですぐに終わる。」と言っていた近隣の農家は、その後天候が長期間悪化し、月をまたぐ破目になりイライラです。

稲刈りは、雨や朝夕の露で濡れていると、脱穀時の選別が悪くなり、藁やゴミと一緒に米粒を田圃に撒くというロスがでるため、晴天でないと作業が出来ません。

ところで、私たちがこの地でお米作りを始めた頃には、国産のコンバインは小型機しかありませんでした。

そのため、クレイソンやインターナショナル社製の海外の大型コンバインを導入しました。

ところが、欧米製を日本で使うと晴天時であっても20%以上のロスが出て困りました。

海外の米麦栽培地の天候は、日本と違って、湿度が低く、収穫時期の穀物は、実だけでなく、茎も葉っぱも共によく乾いているため、株元から刈り取った稲を、そのまますべて放り込み、脱穀部に掛けるという仕様になっており、それが原因です。

現在は、国産の大型で高性能、高精度なコンバインが普及していますが、国産機の仕組みは、刈り取った稲や麦の、穂の部分だけを脱穀部に送り、茎葉部分のほとんどを除外する優レモノです。

でも、農機具の価格は年々上がり、コンバインやトラクター、田植え機など揃えると5千万円を超えるようになりました。

このような事情で跡継ぎのいない高齢農家は、農機具が壊れたのを汐に、早々と廃業せざるを得ない時代になってきたようです。

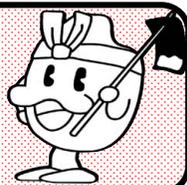
提携米 黒瀬農舎

〒010-0445

秋田県南秋田郡大潟村西1丁目4の7

黒瀬 正・友基

TEL: 0185-45-3088 FAX: 45-2887



E-mail: akita@kurose.com Web: [提携米 黒瀬農舎](#) [検索](#)

★新米のご贈答利用もどうぞお願いたします。

★定期購入の場合も、変更や前倒しの出荷、休止はいつでも対応いたします。変更や休止は次のお米のお届けの5日ほど前までにご連絡下さい。

★電話は土日祝日も含めて朝8時～夜8時頃まで対応致します（自宅兼事務所）。但し、電話受付の専任スタッフはいないため田圃や倉庫作業、外出の時は留守番電話対応となります。ご了承をお願いします。

また、メールもぜひご利用下さい。なおメールは原則すべて返信していますので、返信メールが届かない際は自動的に迷惑メールとなっている可能性があります。迷惑メールやメールの設定をご確認下さい。

いま、日本各地の稲作現場は激動中です。

この数年、日本の稲作現場は大きく変化しています。

表のページで少し触れましたが、全国どこも兼業農家や跡継ぎのいない高齢農家は、コンバインが壊れたから廃業！トラクターが壊れたから来年から米作りを止める。・・・このようにドンドン農家が廃業しています。

小さい規模の米農家が使う小型のトラクターやコンバインでもどれも数百万円を超えます。

後継者がいない農家は、還暦を過ぎてからは、コンバインなどが故障すれば「今更新調しても、体力が続く間に機械の償却経費は出ない。」「もう止めよう。」

このように、廃業のほとんどが、農機具の故障が汐時となるようです。

では、その田圃はどうなるのか。と言うと、それはほとんど近隣の規模拡大を目指す農家に貸します。

貸すということは、地主になるということですが、その地代はタダか、微々たる金額で、地主が負担しなければならない、固定資産税や土地改良費の賦課金を賄えない「地主」の語感とは程遠いものです。

また、農地を売りたいとも、全国ほとんどの地域で、田圃を買いたい。という積極的な買い手はなく、農地は相場自体が崩壊。農地の資産価値はほとんどありません。

一昔前ならば、田圃を遺産相続すれば、貸しても小遣い程度の収入になり、売れば車や新居購入の頭金程度の価値はあったのですが、最近では田圃を相続すれば負の遺産を抱えたことになるという有様です。

築50年の古家屋の処分が社会問題になっているのと同様です。

来年用のモチ麦蒔きました。

山の畠の作業は、のんびりした気分になります。モチ麦専用準備したトラクターは12万円でヤフオクで手に入れた50年前製の名機。



2021.10.3撮影

一方で、全国各地の農村において、大規模稲作経営を行う事例が急増しています。

かつては、一般的な稲作地域で、早くから規模拡大を目指した農家の経営規模は、幾ら頑張っても、一戸当たり3畝から特別大きくて5畝程度でした。

ところが、この数年で、30畝、50畝という大規模農家がどの地域でもたくさん見掛けるようになり、中には100畝規模の経営体まで現れるようになりました。

田圃は、買わなくても、タダ同然で「使ってください。」とトラクターが壊れた農家や、田植え機が壊れた農家が言うてくる。これを断ることに苦労するという現象が各地に見られるようです。

ところが、その規模拡大する農家においても、農機具や施設設備に5千万円も1億円も必要で、経営能力がないと採算が難しく苦労しているようです。

この農村現場の激変は、数年前より始まったところで、これから数年更に激化し、止める人も、規模拡大に乗り出す人も、当分大変な時代が続くと思われます。

でも、この激動は大変なことではありますが、日本農業が崩壊敗退に向かうのではなく、この構造改革の跡に、本当にやる気のある農家が日本農業を拓いてくれることに繋がる可能性を秘めていると思います。

お餅・リンゴ・手作り味噌などご注文ありがとうございました。

お餅などは：**お指定のない限り、11月下旬から年末までのお米と一緒にお届けします。**

リンゴのフジは：**11月下旬～12月上旬**(ご指定頂いている方は、その時期)のお届けとなります。

糴、大豆など手作り味噌関係は：**11月下旬以降**のお届けとなります。

(進物先と自宅のお届け時期を変えるなどのご用命は、何なりと電話やメールでご連絡下さい。)